

C 1 中国の高齢者住宅政策の動向

中国建築設計研究院 国家住宅・居住環境工程技術研究センター 副主任 姜 霓

尊敬する松野理事長、尊敬する井上顧問、尊敬する修院長、張副院長、ご来場の皆様、こんにちは。まず、WCC会議は既に5回成功裡に開催され、今回の会議も必ずいい成果を得ると信じております。これから中国の養老政策と技術研究について、皆様と交流したいと思います。

日本、アメリカ等の養老政策についてはもうずいぶんと研究をしました。中国では養老の問題は90年代にそのときの研究機構から提言され、2011年から重視されてきて、近年は多くの人が重視しています。2011年から今まで、たくさんの海外の経験を参考として私たちはすぐ技術・知識の実践を含んだプロジェクトの建設を始めました。しかし、今の段階ではまだまだ足りませんので、これから私たちは必ず努力して養老施設の建設や、養老政策の整備等を進めます。当センターは研究と設計の機構として、長年中国政府から依頼を受け、この業界の技術的サポートを生かしつつ業務を進めています。そして、今日は養老政策の技術研究について皆さんと交流したいと思います。今日は私たちの経験ではなく、これからすべきことについて発表します。

(スライドNo. 4)

まず、当センターの業務内容を紹介します。当センターは中国建築設計研究院の子会社です。先ほど趙林様が詳しく説明しましたので、ここでは詳しく説明いたしません。

国家住宅・居住環境工程技術研究センター、略称国家工程センターは、国家科学技術部と住宅都市・農村建設部の認定を受けて設立された業界技術開発センターで、中国国内での老人施設研究の最初の機関です。当センターには独自の研究開発グループがあり、住宅と関連して環境分野の実験室や、優れた設計者を有しています。私たちの住宅性能実験室は1980年に正式に設立された、中国国内で初の住宅研究と性能建設の専門的な実験室です。皆さんご存知の通り、当センターは日本と協力して北京でS I工業化住宅プロジェクトを行いました。そして、私たちは全国初の高齢者住宅モデルプロジェクトを実施しました。

(スライドNo. 12)

次は国内政策の分析をご報告したいと思います。近年、中国の養老政策の分野は発展を続けてきました。2011年、中国政府は「中国高齢者事業発展12・五計画」を公布しました。その中で中国の養老サービスシステムの整備目標を明記しました。2013年には「介護サービス業の成長加速に関する若干の意見」を発表しました。さらに先ほどの「12・五計画」に詳しい内容が追加され

ました。標準規格について建設部と民生部、建設基準とサービス基準の枠をつくって実施の枠を提出しました。中央の政策は整備されつつあり、「12・五計画」以来公布された政策は非常に多く、重要度も高くなってきています。地方各省の主な政策はほぼ整っていますが、資金の問題、福祉の問題など、地方の介護特別政策はほとんど空白状態で、非常に不十分です。いまは中国の国家標準はカバー範囲が広がっています。国内の標準はまだ空白状態で、ただ北京、上海などの少数の都市だけに関連基準があります。要するに養老施設の開発は多くの要素を含みますが、国の政策は、養老施設の発展を推進するために制定されました。

(スライドNo. 21)

これから事例を紹介します。1番目は大連夕陽紅高齢者団地。当センターが1999年に初めてつくった高齢者施設のプロジェクトです。このプロジェクトでは高齢者たちの交流スペースを大いに重視してつくりました。そして高齢者の生活条件によって3つのプランの住宅を設計しました。プロジェクトの中で内装付の建築デザイン方法を試みました。また高齢者が使うときの安全性と利便性を考慮しました。

このプロジェクトは様々な賞をいただきました。多くの設計事例でいまもまだ生かされています。ただ、残念なことにこのプロジェクトの運営は今うまく進んでいません。原因を分析すると二つの要因がありました。一つは政策から見ると、中国の高齢者問題はまだまだこれからなので、国からの支援が少ないことです。たとえば土地や資金などです。もう一つの原因はディベロッパーが開発後の運営管理について全然考えていなかったということです。

(スライドNo. 25)

事例の2番目は河北恒利高齢者マンションです。この高齢者マンションは中国の地方部に建てました。高齢者に慣れた生活環境を提供するために、外側と内側に庭がある設計をしました。このプランは内部のスペースの利用は変更しやすいです。地方部の建設の条件によりプラン通りに建てられない場合もあり、バリアフリーの設計で完成したのは80%だけです。設計に従って施工を行うのは大事だと思います。

(スライドNo. 27)

事例3は山東省臨朐社会福祉センターです。これは総合的な高齢者施設です。設計理念は中庭形態、直角交通、景観レベルを考えました。目的としては高齢者に優れた環境を提供することです。設計の段階で室内の細かい部分も考えました。このプロジェクトは政府が投資してつくりました。この地方で唯一の高齢者サービスセンターで、ニーズが多くあります。プロジェクトが成

功するかどうか、ハードの設計等のほか多くの要因があります。

(スライドNo. 31)

事例4は鎮江公共賃貸住宅のリフォームの例です。このプロジェクトは現地の賃貸住宅で、大体40m²から80m²までのプランです。実はこの広さのプランは設計としては結構難しいところがありますが、当センターは在宅養老の理念を推進するつもりです。

(スライドNo. 33)

事例5は2012年に設計された北京のプロジェクトです。構造の部分は今年もう終わりました。このプロジェクトは高いレベルのサービスの高齢者施設です。図面をご覧ください。このプロジェクトでは、廊下に滞留スペースをつくりました。空間機能と動線計画によって、医療付高齢者施設の管理とケア効率を最大化しました。もともとの高齢者施設は今病院になっています。

(スライドNo. 36)

最後の事例紹介は、高齢者施設の総合的な施設です。都市の中心部の高齢者施設の新しい建築形式です。このプロジェクトは総合的な高齢者サービス施設で、その中にはマンション、高齢者マンション、商業施設と高齢者施設が含まれています。このプロジェクトは三つの部分が含まれていますが、一つは居住、もう一つは医療介護、最後は娯楽です。限られたスペースの中で高齢者の完全な生活環境をつくりました。

このようなプロジェクトは国内注目されました。期間が短いので、いい点と悪い点はまだはっきり言えません。先ほどご紹介した事例は、皆さんお分かりと思いますが、不十分な点が数多くあります。しかし私たち研究者としては、これから中国の高齢者施設をつくるために大事なことだと思います。

(スライドNo. 40)

簡単に研究プロセスをご紹介します。1980年代は当センターの前主任、リュウ先生は日本の高齢者施設に関心を持ち、よく日本を訪問して、86カ所の高齢者施設を見学しました。1994年、日本のJICAと協力して中国高齢者住宅研究のプロジェクトを行いました。そのときは調査、研究を行って、技術資料も翻訳しました。

(スライドNo. 42)

1999年にすでに研究課題がありまして、そのときのテーマは「すべての世代のための社会を目指して」でした。

(スライドNo. 43)

2003年、政府の依頼により、国の標準を監修しました。これが中国で初めての高齢者施設設計の参考文献です。2012年、再び国の依頼で、「高齢者居住建築設計規範」を監修しました。

(スライドNo. 45)

第12次五か年計画の間に、当センターは「居住区高齢者対応計画、建築設計技術研究とモデル」をテーマとして「高齢者居住区建築設計図集」を編集しました。

(スライドNo. 46)

研究の過程において、基本的なデータが足りないという問題が明らかになりました。高齢化した都市で、高齢者住宅と高齢者施設を20年ほど継続して調査しています。過去の10年間、中国国内で3回実態調査をしました。

(スライドNo. 47)

第5の部分は研究成果をご紹介します。

まず、当センターの設計技術成果を紹介します。技術成果は3回の大きな変更がありました。1999年から2005年まで、その間、高齢者施設について資料も足りず、国の正式な政策もありませんでした。その間に海外の研究設計機構と交流した上で、ハードな設計技術の問題を解決しました。この近年の努力により、私たちは高齢者施設の主要な部分について習熟し、従来の基本の技術研究からいまの高齢者の心理に合ったものになっています。設計した技術製品はもともとのハードの部分から、今ではソフトの部分になっています。現在、設計した技術成果は生活環境重視、細部設計技術成果とされています。

この10年ぐらいの研究によって、たくさんのプロジェクトが成功するかどうかは、設計だけではなく、運営の問題やコストの問題もあります。このため、私たちは今高齢者の社会性を重視して、これからのプロジェクトをつくる際には、できるだけサステナブルなものにするつもりです。この技術成果はコストコントロールをして、サステナブルな設計を行ったものと言われています。

(スライドNo. 52、53)

技術成果のアップデートに従って、これからの研究の発展方向をいくつか紹介します。

まず高齢者施設向けの部品の問題です。高齢者施設をつくる際に、適した部品がなかなか見つけられないため、多くのサービスは目標をまだ達成していません。このため、当センターと関連の民生部の部門とが協力して、高齢者施設の部品庫をつくりたいと考えています。

当センターは国内のほかの研究機関と協力して高齢者適応性評価システムをつくりました。団

地計画や建築設計にモジュールを提供したいと思います。

(スライドNo. 54)

先に紹介しました通り、高齢者施設の発展はまだ日が浅く、資金の問題もあります。海外の成功の経験は参考になりますが、国による状況の違いも大きいです。中国は中国なりのデータベースをまずつくるため、当センターと中国建築設計研究院は投資をして、自分の実験室をつくりました。今は実験室は高齢者建築の空間変数試験と高齢者建築の光環境試験、環境心理研究など、三つの方面の試験と研究を行っています。この実験はまだ続けますが、皆様、もし何かご意見があればぜひお願いします。

私の報告は以上です。どうもありがとうございました。